



# 2023年度(FY2024) 環境レポート



クミ化成 株式会社

## 目 次

	ページ
● 目次	1
● はじめに	2
● 環境方針	3
● レポートの対象範囲	4
● 環境マネジメント パフォーマンスの総括	5
● 全社環境マネジメントシステム展開状況 その1	6
全社環境マネジメントシステム展開状況 その2	7
● サイト毎の主な環境マネジメン活動及び実績	8
● 環境マネジメントシステムの今後の取組みについて	9
● おわりに	10

## はじめに

地球規模で環境意識が高まっております。そのなかでも環境マネジメントとして、温暖化対策、廃棄物対策、生物多様性保全、製品含有化学物質管理などの取組みと、経済的利益の創出が両立できる企業でなくてはなりません。

当社が目指す「環境マネジメント」と「経済的利益の創出」とは、以下の取組みをすることです。

1. 地球温暖化対策、廃棄物対策、生物多様性保全、製品含有化学物質管理
2. 製品の軽量化・小型化・省資源・リサイクル性の強化推進や従来技術に置き換わる新技術の創出
3. 生産設備の改善・改良によるゼロエミッションの推進
4. 管理・間接部門の効率アップによる省資源・省エネルギーの強化

それには、従業員の一人ひとりが自分の仕事に「ムリ、ムダ、ムラ」がないか常に意識し、改善・改良を実践することにより、環境パフォーマンスの向上で持続可能な経営が実現できると考えております。

とりわけ当報告年度〔2023年度(FY2024)〕は、旧鈴鹿事業部に代わって三重工場の稼働が大きな変化点となりましたが、環境負荷の少ない最新の工場設計に努めましたので、将来的に環境効果を生むものと期待を持っております。

今後も環境保全を企業の社会的責任として、また、社会貢献の一環として日常業務のなかに取り込み、積極的な推進・展開を行ってまいります。

2024年4月

クミ化成株式会社  
代表取締役社長  
富田 禎二

## 環境方針

### 基本理念

当社は、自動車・二輪車・汎用機的设计・開発、製造を行い、広く供給していることを踏まえて、地域社会及び利害関係者から信頼される企業を目指し、ライフサイクル視点で活動、製品及びサービスが環境に与える影響を考慮し、環境マネジメントシステムを事業活動の重要課題の一つに位置づけ、適用できる「持続可能な開発目標(SDGs)」を実践します。

### 行動目標

No.	行動目標	SDGs目標
1	事業活動、製品及びサービスによる環境への影響を評価し、技術的、経済的に可能な範囲でカーボンニュートラル達成に向けた温室効果ガス排出量削減、製品含有化学物質管理の推進を包含した環境目的・目標を設定し実施します。	【7.3、12.4】
2	環境マネジメントシステムの継続的改善を推進します。	【12.8】
3	事故や緊急時の油、液類等の漏出による環境汚染の防止を図ります。	【6.3】
4	環境に係る法的要求事項及びその他の要求事項を明確にし、順守します。また、海外の環境法規制対応にも積極的に取り組みます。	【16.3】
5	本来業務の中で環境に対するよい影響力の行使を推進します。	【12.8】
6	環境教育や社内活動を実施して、当社で働く人及び当社のために働く全ての人に環境方針の理解と環境情報の周知を行い、環境保全に関する意識の高揚・向上を図ります。	【12.8】
7	環境に関する地域活動に積極的に参加し、地域社会との共生を図ります。	【17.17】
8	3R〔Reduce(リデュース)/Reuse(リユース)/Recycle(リサイクル)〕を意識した環境保護への取り組み、持続可能な資源の利用、気候変動の緩和及び気候変動の影響への適応、並びに生物多様性及び生態系の保護に努めます。	【12.2、13.3、15.4】



当社は、持続可能な開発目標（SDGs）に取り組んでいます。

### 1. 対象地域

国内の全事業所を対象としています。

### 2. 対象組織（EMSの適用範囲）

ISO14001認証登録範囲の7サイトです。  
具体的組織は次のとおりです。

- |  |    |        |                |
|--|----|--------|----------------|
| ・本                                     | 社  | 本社サイト  | (東京都千代田区外神田)   |
| ・関                                     | 東  | 関東サイト  | (群馬県渋川市北橘町上南室) |
| ・三                                     | 重  | 三重サイト  | (三重県亀山市管内町字藤山) |
| *社内での部品生産供給機能を持った<br>新設工場として旧鈴鹿事業部から変更 |    |        |                |
| ・大                                     | 泉  | 大泉サイト  | (群馬県邑楽郡大泉町吉田)  |
| ・ト                                     | ヨタ | トヨタサイト | (愛知県豊田市梅坪町)    |
| ・熊                                     | 本  | 熊本サイト  | (熊本県菊池市泗水町永)   |
| ・開                                     | 発  | 栃木サイト  | (栃木県芳賀郡芳賀町芳賀台) |

### 3. 対象期間

2023年度（FY2024）：2023年4月～2024年3月

## 環境マネジメント パフォーマンスの総括

2023年度(FY2024)の環境管理項目と評価の状況は下表のとおりとなります。

評価基準：目標達成度	
○	100%
△	80%以上
×	80%未満

No.	目的	管理項目	目標	実績	評価
1	法規制及びその他の要求事項の順守	順守率	100%	100%	○
		法規違反件数	0件	0件	○
2	製品の流通、使用、廃棄を考慮に入れた製品開発	新規提案件数	2件以上	2件	○
3	環境負荷低減の為に改善活動	改善提案件数	前年以上 (前年799件)	892件	○
4	生産効率アップによる工場使用電力の削減 (サイトの増減の変化点を除く)	総使用量 2022年度比削減率 単位(KL)	-1%以上	-28%	○
5	サポート部門の使用電力の削減	総使用量 2022年度比削減率 単位(KL)	-1%以上	-21%	○
6	廃棄物量の削減 (サイトの増減の変化点を除く)	廃棄物総量 2022年度比削減率 単位(トン)	-1%以上	-1.7%	○
7	製品化学物質管理による法規への抵触なし	IMDS報告 納期順守率	100%	100%	○
		法規違反件数	0件	0件	○
8	全社での環境負荷低減 (サイトの増減の変化点を除く)	CO2総排出量 2022年度比削減率 単位(t-CO2)	-1%以上	-23%	○

2023年度(FY2024)の全社展開項目は次のとおりです。

● **グリーン購入及びグリーン購買**

- ・環境に配慮した事務用品・備品等の購入を推進しております。
- ・環境への負荷が低減された原材料・部品・部材・梱包副資材等の調達を推進しております。

● **廃棄物削減**

- ・材料リターン化を促進し廃棄物削減に寄与しております。

● **外部コミュニケーション及び情報公開**

- ・環境保全・環境負荷低減・環境法規等に対応する為、顧客、取引先と緊密な連携をとり、将来性のある自社製品開発や環境保全に取り組むと同時に、環境法規制等を順守しております。
- ・各サイトでは地元自治体、地域と積極的にコミュニケーションを図っております。その他、各サイトに対する自治体及び地域からの苦情はありませんでした。

● **リスクマネジメント対応**

- ・顧客/取引先と協働で環境法規制の順守を推進し、環境法規制への抵触はありませんでした。

● **環境法規制の特定及び順守状況**

- ・工場、事業所等に適用される法規制改訂状況を定期的に調査し、工場をはじめ関係サイトに適用される「法規制その他の要求事項一覧表」で特定し、周知徹底しております。
- ・「法規制その他の要求事項一覧表」を順守しているかの確認として、ISO内部監査活動に順法監査を組み込み実施しております。
- ・順法監査結果は、監査責任者及びマネジメントレビュー時に経営層に報告して必要な対応を実施しております。

● **順法監査**

順法監査結果はつぎのとおり各関係法規制に基づき良好に運用管理されています。

- ・実施日 2023年9月11日(月)～9月21日(木)
- ・監査結果 推奨事項1件
- ・結果報告 2023年10月2日に「ISO内部監査 報告書【全社総括】」で、内部監査責任者(統括管理者)、管理責任者、社長に報告しました。
- ・フォローアップ フォローアップ監査結果の確認を実施し、是正が完了しております。

## ● ISO内部監査

ISO内部監査結果は次のとおりです。(環境マネジメントシステムに関わる内容)

例年からの変化点として、他拠点間相互監査の取り入れや、管理職を監査リーダーに置くなど強化策を追加し取組んだ結果、監査の質が向上しています。

- ・実施日 2023年9月11日(月)～9月21日(木)
- ・監査結果 観察事項1件、推奨事項8件
- ・結果報告 2023年10月2日に「ISO内部監査 報告書【全社総括】」で、内部監査責任者(統括管理者)、管理責任者、社長に報告しました。
- ・フォローアップ  
各サイトごとにフォローアップ報告書で、内部監査責任者及び統括管理者に報告しました。  
観察、推奨事項は、是正処置が完了しております。

## ● 外部監査

新設した三重工場の稼働に伴い、行政機関による立ち入り監査がありましたが問題点はありませんでした。

## ● 審査機関による定期審査

環境マネジメントシステム、ISO14001 2015年版対応による更新審査の結果はつぎのとおりです。

- ・実施日 2023年10月9日(月)～10月13日(金) 5日間
- ・審査範囲 ISO14001の認証対象となっている7サイト \*4ページに掲載のサイト
- ・審査結果 軽微な不適合1件、観察事項7件
- ・軽微な不適合への是正処置が完了し、認証が更新されました。  
観察事項の是正処置についても進め、この有効性については、次回ISO内部監査で確認します。
- ・審査総括(審査機関)
  - \*新たに策定された中期経営方針 (FY2024～ FY2026)では「サステナビリティ進化によるカーボンニュートラルへの取り組みと従業員満足度の向上」実現に向けた活動が展開されており、今後の成果が期待されます。
  - \*この3年間、LED全面切替え、射出成形機の電動化、エコモ(節電ユニット)、ソーラーパネル、電力買取り等カーボンニュートラルへの対応を意図した活動が推進された結果、CO2削減目標が達成されておりEMSが有効に機能していました。
  - \*内部監査の進め方が業務の関連性の深いサイト間による相互監査方式と監査の深さ向上改善と人材育成も兼ねて部門責任者を監査リーダーに置くことに変更された結果、指摘件数や内容が改善され内部監査の有効性が向上していました。

## ● 教育訓練

新入社員への環境マネジメント教育のほか、部署での環境教育を随時行い全従業員の環境意識高揚を図っております。



## サイト毎の主な環境マネジメント活動及び実績

2023年度(FY2024)の全サイトで環境法令を順守しており、自社としてできる省エネ貢献への施策推進を積極的に実行しています。  
その主な内容は下表のとおりとなります。

	環境法令順守率	主な省エネ施策
関東サイト	100%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・KUULシステム導入による高効率生産管理</li> <li>・太陽光発電システム拡大検討</li> <li>・QA機/ロボット導入拡大(不良品削減等)</li> <li>・エコモ/グリーン電力等の拡大検討</li> <li>・物流効率の最適化</li> <li>・材料リサイクルシステムの積極利用</li> </ul>
大泉サイト	100%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物流効率の最適化</li> </ul>
三重サイト	100%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高効率レイアウト及び高効率設備の導入での工場設計</li> <li>・KUULシステム導入による高効率生産管理</li> <li>・材料自動搬送システム導入によるスペース効率の向上</li> <li>・QA機導入拡大(不良品削減等)</li> <li>・物流効率の最適化</li> </ul>
栃木サイト	100%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サステマ材の新商品開発</li> <li>・最適物流効率を考慮した製品設計</li> <li>・3Dプリンタ導入による製品開発効率の向上</li> </ul>
その他サイトを含む全体	100%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社有車のハイブリッド化やLED照明化の継続など</li> </ul>

当期は、中期FY2024～FY2026の1年目となります。

引き続き次に示す3つの基本的取組みを推進し、経済的効果の向上と環境保全に貢献することで、本業による社会貢献に繋がると考えます。

### 1. 環境を保護する

「汚染の予防」、「持続可能な資源の利用」、「気候変動の緩和及び気候変動への対応（省エネ活動・廃棄物の適正処理・3R推進・製品含有化学物質管理等）」、「生物多様性及び生態系の保護」の運用を通して、環境保全に貢献する。

### 2. 順守義務を満たす

当社に適用される法規制及びその他の要求事項について内容の決定・運用・評価を通して決め事に従って活動する。

### 3. 環境パフォーマンスを向上させる

ISO内部監査や各マネジメントレビューを通して、環境マネジメントシステムを継続的に改善することを軸に置き本業による社会貢献と経済的利益創出を果たすためには、経営と環境を同期させ、次の3つをマネジメントとして展開することが重要であると考えております。

- ・トップダウンでPDCAをまわし、経営と環境のパフォーマンス達成に取り組む。
- ・経営と環境に顕在・潜在するリスク低減（リスクマネジメント）を図る。
  - ➡法令遵守/企業倫理/社内ルールの遵守と改善・改良活動及びその運用  
その他、環境ヒヤリ、ハットの顕在化
- ・ムリ、ムダ、ムラの排除で、本来業務の改善・改良により合理的/効果的に業務推進する。

これらを「経営」と「環境」のマネジメントとして捉え実践することで「企業の社会的責任(CSR)」を全うできると考えます。"

企業は利潤を上げ経済的な責任を果たすだけでなく、「法令遵守」「環境保護」「消費者保護」などの社会的側面にも責任と義務を有していることから、積極的に社会的責任を果たすことで、「株主、主要取引先、地域社会、消費者」の信用・信頼が得られ、業績向上や資金調達の容易化をもたらすと考えます。

それには、「環境経営」で、全社が一丸となって環境保全に積極的な取り組みを行い、「株主、主要取引先、地域社会、消費者」から信用・信頼されることが重要です。

## おわりに

本環境レポートは、前期1年間の環境活動実績データと活動事例に関する事例の紹介です。

引き続き、「地球温暖化対策の強化」「廃棄物の適正処理継続」「生物多様性保全の取組み」「製品含有化学物質管理」等を当社の事業活動に置き換え、強力で推進してまいります。

これらの発信を通じて、当社の環境、社会貢献についてご理解頂ければ助かります。

最後になりましたが皆様には是非一読いただき、忌憚のないご意見、ご評価を頂ければ幸いです。  
本レポートの発行にあたり、ご指導・ご協力を戴いた関係者並びに関係各位に厚く御礼申し上げます。

発行 2024年4月

クミ化成株式会社  
グループ品質保証責任者  
新井明夫